



新年のご挨拶



皆さま、あけましておめでとうございます。清々しい気持ちで、2025年の新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

地域の医療施設の皆さまには、多くの患者さんをご紹介いただき、また、在宅医療や移行期医療などに協力していただくなど、当センターの運営に多大なご支援をありがとうございます。私たちは、高度先進医療に取り組むとともに、救急を含む周産期・小児医療分野で幅広い地域のニーズにお応えすることが極めて重要な責務であると考えております。引き続きご理解・協力をよろしくお願いいたします。



総長 倉智 博久

昨年4月から「医師の働き方改革」が始まりました。当センターでは評価センターとの話し合いも順調に進み、いくつかの診療科で宿日直許可も得ることもできました。しかしながら、現状の医師の働き方で、兼業を含めて本当に無理なく規制に則った勤務ができるかはまだまだ注視していかなければなりません。もちろん、基準を外れた勤務は許されませんが、一方で、今まで通り質の高い診療・研究・教育を継続していく必要もあります。今回の働き方改革は、まだ制度開始早々です。今後さまざまな不都合や困りごとが起こると思いますが、地域の医療施設の皆さまの理解とご協力を得ながら、乗り切っていきたいと思っています。

本年も当センターの大きな課題は病院の建替えです。今年中には設計・施工一括発注に向けた入札の準備を予定しており、建替え工事に向けた最終段階に入るべく準備を進めています。しかしながら、ここ数年は、病院建設については、物価上昇による建築コストの増高や人員確保とくに設備を担当できる人員が確保できないために、入札不調となるケースが増えております。この傾向は、今年更に顕著となり、当センターと同規模の病院については、私たちの調査では全て入札不調若しくは延期となっています。当センターの建替えにもまだまだ大きなハードルが残っていますが、何とか一つ一つ課題を乗り越えて新センターの完成を目指していきたいと考えています。

いくつかの困難がある状況下ではありますが、建替えを粛々と進めるとともに、地域医療における責務を全うして参ります。本年も、皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。



当センターにリハ・育療支援部門が発足し、5年を迎えました。部門は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、視能訓練士、遺伝カウンセラー、ホスピタルプレイ士の7職種、47名で構成されています。

それぞれの職種の専門性を通じて子どもとご家族にアプローチするとともに、7職種間で連携・協働することで、一人ひとりの患者さんをより多角的な視点から捉えた関わりができるようになりました。

各職種の業務内容をご紹介します。



理学療法士	運動機能障がいのある子どもに対して運動機能の獲得を促します。
作業療法士	上肢機能、遊びや学習、生活に関する能力を評価、支援します。
言語聴覚士	聴こえや言語・コミュニケーション、発音、吃音、口蓋裂言語等の評価や指導・相談を行います。
心理士	心理検査や面接、行動観察を通じて子どもの発達の、心理的な状況を把握します。
視能訓練士	弱視や斜視、両眼視の検査・訓練、ロービジョン児の検査や相談を行います。
遺伝カウンセラー	遺伝的検査の前後にご家族と面談し、情報提供と心理支援をしています。
ホスピタルプレイ士	医療経験に対する不安や恐怖を軽減させ、子どもが前向きに医療に臨めるよう支援します。

このように、運動、手の操作、視覚/聴覚、言語、認知、心理、社会性等の様々な情報を共有することで、発達やこころの育ちを支援しています。また、ご家族や患者さん自身の病気にまつわる不安や悩みを軽減するために、他の医療スタッフや地域の関係機関と協力しながら対応しています。
(リハ・育療支援部門 稲垣友里、井上直子)

当センターにおけるプレパレーションの取り組み



みなさんは「プレパレーション」という言葉をご存じでしょうか。プレパレーションとは検査や処置、手術などの医療行為を受ける子どもに対して、心構えや準備を促すことによって不安や恐怖を軽減し、乗り越える力を引き出すことです。プレパレーション委員会ではこれからどのような手順で、どのようなことが行われるのか子どもたちにわかりやすく説明し、怖いと思っていることがあれば、どうやったらがんばることができるかを一緒に考えるための資料として多くのプレパレーションブックや動画を作成しています。当センターホームページの「こどものページ」の中の「プレパレーションブック」のコーナーでは自宅や他の医療機関でも使って頂けるように、主な検査や手術室、

抑制に関するブック12種類のPDFがダウンロードできるようになっていますので、ぜひ一度ご覧下さい。その他にも外来や病棟、手術室で行えるスタンプラリーを作成して子どもたちの励みになるようにしたり、着ぐるみのモコニャンによる病棟訪問を行ったりしています。

怖がって泣く子を抑えつけたり眠剤で眠らせたりする前に、プレパレーションを行ってみてください。自分の力で怖いと思っていた処置を乗り越えることができると、子どもは自信をもち、成長することができます。“プレパレーションの魔法”をぜひ体験してください。



プレパレーションブック

(プレパレーション委員会委員長 恵谷 ゆり)

当センターでは地域の医療機関との“顔の見える連携”のひとつとして地域連携懇話会を開催しています。新型コロナウイルス感染症の影響でしばらく開催を中止していましたが、今年度から再開しました。今回は2つの訪問看護ステーションの方をお招きし、「連携するうえでの当センターへの要望」をテーマにお話しいただき、看護部入退院支援看護師会のメンバー、MSWと意見交換を行いました。



看護サマリーを充実させてほしい。訪問看護ステーションに伝えたいこと（例えばどのようなご家族か、どの程度理解され受け入れているのか、病棟で工夫していることなど）をメモでもいいのでまとめてほしい。



サマリーに主観的な情報は記録しにくいので、退院前カンファレンスで伝えていきます。



どんな場合に母子センターの医師に相談・報告すればいいのか悩む。相談の目安を家族に伝えてほしい。相談したいときはどうすればよいか。窓口があると有難い。



問い合わせ窓口はMSWをお願いします。必要に応じて医師・看護師など適切な職種に繋がります。訪問看護師のかたが気になるとしたら相談していただければ有難いです。

今回、訪問看護ステーションでの困りごとを知って、まだまだ連携の不足を感じております。引き続き連携を図りながら、いただいたご要望に少しでもお応えできるように検討していきます。（患者支援センター副センター長 田家由美子）

医療的ケア児支援センター 活動報告4



今回は、他県の医療的ケア児支援センターとの交流について報告します。まず11月1日に開催された「県境なき医療的ケア児支援センター情報交換会」（高松市）に参加しました。また11月9日には第49回日本重症心身医学会（神戸市）のシンポジウムで、三重県、奈良県、兵庫県のセンターと一緒に活動報告を行いました。いずれの会でも活発な議論がなされ、課題や悩み、解決方法などを共有することができ、非常に参考になりました。これら以外にも全国の情報交換会などにも参加しています。こういった情報も参考にしながら、今後も大阪での支援作りを進めていきます。

（医療的ケア児支援センター センター長 望月成隆）



大阪府妊産婦こころネットが設置されました



今年度4月から大阪府委託事業「妊産婦メンタルヘルスネットワーク事業」が開始されました。文字通り、妊産婦さんへのメンタルヘルス支援体制の一つとして設置されました。産婦人科・精神科・行政等の多機関のネットワークを整備するものです。すでに、妊産婦さん個人に関わる支援としては「妊産婦こころ相談」事業が稼働中です。主な事業内容は医療機関調査、多機関連携の支援体制構築、疫学的調査・研究、研修会開催、HP開設等になります。2025年1月25日には1回目の研修会も開催予定です。まだまだこれからの事業ですが、皆さんと共に大きく育てたいと考えています。ご支援よろしくお願いいたします。

（病院長 光田 信明）



ボランティア活動30周年記念イベントを開催しました

11月11日から5日間、ボランティア活動30周年記念イベントを開催しました。1994年に始まった当センターでのボランティア活動のあゆみや、現在の活動紹介、ボランティアが作成した電気仕掛けのゲームやクラフトコーナーなどを設



け、多くの患者さんやご家族がボランティアと共に楽しいひと時を過ごしました。モコニャンがお祝いに駆けつけた時間には、一緒に写真を撮りたい子どもたちの行列ができるほどでした。30年前に小さなグループの集まりから始まり、年月を経て、現在130人のボランティアが様々な活動を行っています。

薬薬連携の取り組み

当センター薬局では、地域の保険薬局との連携強化を図るため、年2回勉強会を開催しています。コロナ禍もオンライン形式で開催を継続し、連携維持を図ってきました。今年度は、9月27日に第1回目をオンライン開催し、新生児科部長の望月成隆先生に「医療的ケア児支援から考えるNICU退院時支援」についてご講演いただきました。第2回を来年2月または3月に開催予定です。

この他に、当センターから患者さんのかかりつけ保険薬局へ情報提供等の取り組みを行っており、患者さんやそのご家族がどこにいても、安全で安心な薬学的管理を受けていただけるよう、連携の更なる強化を考えています。

疑義照会簡素化プロトコルもしていますので『renkei@wch.opho.jp』へご連絡いただければと思います。
(薬局 岩西雄大)

南大阪MOCO ネットでの連携が進んでいます

当センターには電子カルテ情報を地域の皆様にご覧いただく「南大阪MOCOネット」というシステムがあります。患者さんの同意があればクリニック、病院、訪問看護ステーション、薬局などの皆さんにご利用いただけます。

登録機関数はすでに100件を超えていて、最近では薬局の皆様の薬々連携にも便利にご利用いただいています。まだご利用でないご機関は、ぜひ登録をお勧めします。登録方法等はホームページをご覧ください。患者支援センターまでお気軽にご連絡ください。



南大阪MOCO ネット



診療時間：平日 9時～17時30分
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

【初診専用】 TEL：0725-56-9890（直通）

FAX：0725-56-5605

【その他】 TEL：0725-55-3113（直通）

FAX：0725-56-7785

【医師相談窓口】 E-mail：chiren@wch.opho.jp

医療対象者
ホットライン
(※24時間受付直通)

PICUホットライン
0725-56-1070

小児がん・白血病
ホットライン
0725-57-7677

心疾患ホットライン
0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。